



『であい、ふれあい、そして未来へ』～自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成～

＜「新型コロナウイルス感染症」にふりまわされないために＞

文部科学省よりお知らせがありましたのでお伝えします。テレビでは、生放送の番組でも出演者の距離が離れており（ソーシャル・ディスタンス）間にはアクリル板の設置、今ではスタジオ外から個々がオンラインでのリモート中継でつながっている場面も多くなってきています。また、家庭においては買い物に行けば、支払い場所では立ち位置が指定されており、レジとの間はビニールやアクリル板で仕切られています。何か人と人の心の距離までもが遮断されてしまうような気持ちにさせているのではないかと感じます。また、医療現場では多くの方が治療や感染終息のために取り組んでいることも報道されています。

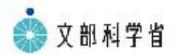
「日本赤十字社」では新型コロナウイルス感染症には「3つの“感染症”」の側面があると言われていいます。「病氣」を予防することはもちろんですが「不安や恐れ」は人間の生き延びようとする本能を刺激することから、ウイルス感染にかかわる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、人と人との信頼関係や社会のつながりを壊してしまいます。嫌悪の対象を偏見や差別で遠ざけることで得られる安心感は本当の敵を見えなくしてしまいます。差別や偏見は、特定の人、地域職業などに対して「危険」「バイ菌」といったレッテルを貼る心理によって生まれます。3つの感染症の負のスパイラルを断ち切らなければなりません。

- 第1の感染症を防ぐためには「手洗い」「咳エチケット(マスク着用)」「人ごみを避ける」などの行動を自分のためだけでなく周りの人のためにもするという意識が大切です。
- 第2の感染症にふりまわされないために、「気づく力を高める」「聴く力を高める」「自分を支える力を高める」が大切です。
- 第3の感染症を防ぐためには、「この事態に対応しているすべての方々をねぎらい、敬意を払う」ことが大切です。

松坂

外出等日常生活に制限がかかり、不便を強いられることが多い中、こんな時だからこそ、自分たちの行動やこれからの振る舞いをよく考え、それぞれの立場でできることを行い、みんなが一つにな

って負のスパイラルを断ち切れるようにしていくことが大切であると考えます。一日も早く平時の日常生活に戻ることを願っています。学校HP(コロナウイルス関係)にも掲載しましたのでご確認ください。



保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様へ感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様へ次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要です。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力を願っています。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思っております。

令和二年八月
文部科学大臣 萩生田 光一